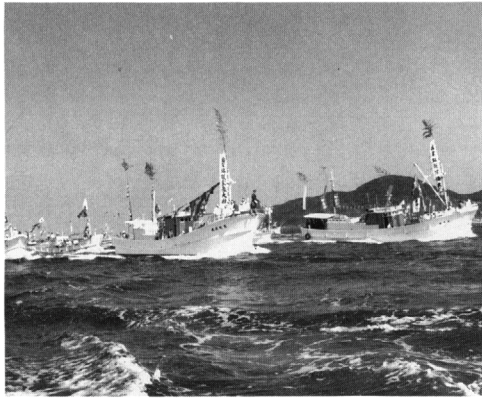




毎月十五日発行 社会 宗像大社 定価 一年送料共 1000円

神具・装束 結納式場用品 福岡店 福岡市博多区東公園二一三...

神郡宗像の秋 秋の大祭も間近



宗像地方に秋の訪れを告げる当大社恒例の秋季大祭(田島放生会)がいよいよ近づいた。

この場にて、本年の「みあれ祭」行程・編成、又大祭に先駆けて行われる沖津宮神迎え神事の日程等が決定された。

Table with festival dates and activities: 九月三十日(土) 午後五時 総社地主祭, 午後六時 宵宮祭, etc.

九月九日は古くから「重陽の節句」、「菊の節句」と称され、一般には特にこの日は「オクニチ」又は「オクンチ」と呼ばれて、全国各地の神社に盛大な祭りが行われているが、今日では九月九日は限らずこの時期の適宜な日を選んで、「宮座祭」、「秋季大祭」、「収穫祭」として行なわれ、この祭礼日を普通に「オクンチ」と云うようになっている。

田 熊 鷲頭かつ代 細りゆく生ひのこのいままをただ座りたり駒抜けのごとく

田植を終えた農村のあちこちで「宮籠り」とか「泥落し」と呼ばれる恒例の行事が催行されている。

「宮籠り」と呼ぶように、むかしは神社に集まって飲食を共にするようない機会が何度あったし、それは終生忘れ得ぬようこの日でもあった。地方によっては「農前・農後のお通夜」といって、田植の前後に宮籠りをする顔ぶれも一家の亭主主婦くらいで、子供や老人の姿を見ることはなくない。

慣習もあり、互いの連帯感を深め合ったものである。「結ゆひ」とか「手間替」とかいわれる相互扶助の関係を水争いなどを防ぐための親密な交わりや、病人のある家などは皆で助けなければいられない心情的なつながりは、氏神と共にある生活共同体のありかたとして受け継がれてきたもので、代満(しろみで)

それは同時に、農村における神社の役割や神事の衰退を意味するもので、時勢に対応する神職の努力が問われていると受けとめるべきであろう。

過日、熱心な農事組合長から部落の當農推進大会を催すとの案内があった。会場は公会堂で、市農協の代表から激励の辞があり、先進優良地区の當農推

直会が主婦たちの手料理によって準備されていることは有難かった。食品産業の発達には、どんな片田舎にも画一的な仕出し弁当が普及させたが、直会の意義を深めるためにも主婦たちの手づくりは奨励されなければならぬ。

深 田 中野 節子 視力弱き我に眩しく初燕飛ぶ灰色の空叩きぬ

集う多くの参拝者により大の祭典、平成の御代初めてに賑うこととなる。約七百年の歴史を持つ。

第三八回 宗像大社歌会詠草 中村 吾郎 選 毎月末日 切







